

平成31年2月12日
大分県農林水産研究指導センター
病虫害対策チーム

平坦地域における白ネギべと病の防除対策について

昨年(平成30年)の12月上旬からの高温多雨傾向(図1)により、現地では平年より早くべと病の発生が確認されています。また、気象庁の1か月子報では平年より気温が高く、降雨量が多いと予想されていることから、今後、べと病の多発が懸念されます。

圃場内外でのべと病の発生状況に応じて防除を実施してください。

1. 気象状況

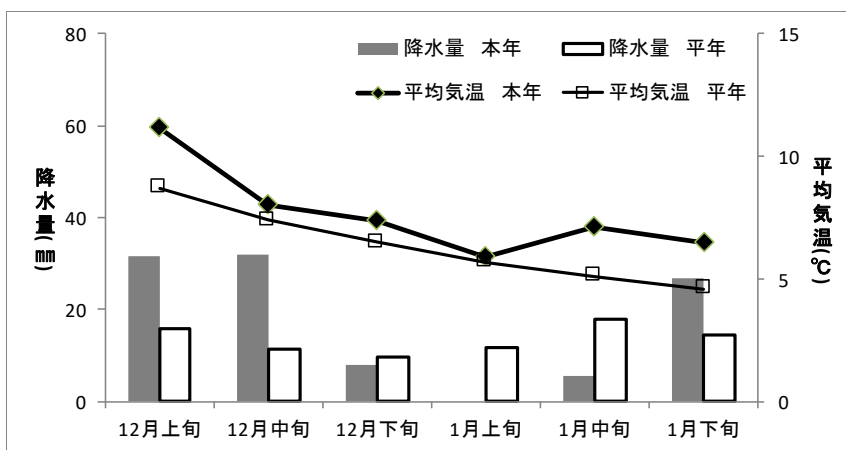


図1 気象状況 (気象庁 豊後高田市)

2. 防除上注意すべき事項

- 1) 発生が認められていない圃場でも感染の可能性があり、発生に好適な気象条件(平均気温13~20°C、降雨)が続くと急激にまん延するため発病前の予防散布を行う。
- 2) 薬剤散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- 3) 薬剤が付着するよう必ず展着剤を使用し、株元にも十分付着するよう散布する。
- 4) 多湿条件や多肥、肥料不足は発生を助長するので排水対策を施すと同時に、適正な肥培管理に努める。
- 5) べと病の多発した白ネギは感染源となるため、圃場外で適切に処分する。
- 6) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)

